

『映像でやさしく学ぶ』

生命倫理と看護倫理の基礎』全5巻

自身に問い続けなくては ならない“倫理”を 学ぶための道しるべ

監修：佐藤みつ子、森千鶴／定価：各巻 32,000 円＋税／5 巻セット 160,000 円＋税
発行：株式会社東京サウンド・プロダクション／TEL. 03-3405-3173



看護倫理は、看護師の知識・技術・態度の根底に存在するものである。看護基礎教育では、専門職業人としての倫理観を高めるために、社会におけるさまざまな規範の根拠について考察する力、自分自身の思考や行動を客観的に認識する力が必要であり、各学校が特徴をもたせ教育理念に表現している。評者の勤務校は、45年の歴史ある3年課程看護専門学校から、2017(平成29)年度より4年制専門学校として再スタートした。新カリキュラム構築では倫理教育を主軸として、教育理念での位置づけ、分野・領域・科目・単元の学習内容の設定、科目横断の学び方、学年での積み上げなどの話し合いを重ねてきた。

1年生は、社会におけるさまざまな規範(道徳や哲学)の根拠について考え、倫理的に判断し行動できる力を養うとし、2年生は、現代社会の現状と課題について理解し、さまざまな価値観について考察を深め、3年生では、さらに経験の意味を問いながら自分のありようを見つめつつ、自己理解・他者理解を深め、生きること・死ぬこと、人間とは何かを論理的に考える力を滋養したいと考えた。そして仕上げる4年生では、専門職業人および反省的実践家として、看護とは何かについて、行為のなかで省察することの意味を学ぶとした。さらに4年間のなかで展開される臨地実習によるかけがえのない経験を意味づけていくことで、専

門職業人としての倫理観を高めていくことができるようにと考えた。

看護倫理を学ぶ道しるべとして、本DVDの第1巻は、1年生から活用できるように、日常の医療現場で、原点となる道徳心から養うように組み立てられている。第2巻では、学習形態が学校から病院での臨地実習へと発展し、報告・連絡・相談等学生の経験を具体に取り上げている。さらに現代の若者の生活と切り離せないSNSについて、情報活用に伴う倫理的課題について考えることができる。第3巻以降は事例検討から学ぶ構成となり、患者への日常生活ケアに潜む倫理的課題についてわかりやすく解説している。第4巻は成人看護学、老年看護学、第5巻は精神看護学、小児看護学であり、副題の「患者と医療者の考え方のギャップ」について考える教材を提供してくれる。医療者としての考えをもちながらも、対象者や家族等が意思決定するプロセスを支援し、意思を尊重するとはどういうことなのかについて考え、学ぶことができる。

看護倫理に関する判断は、正解がなく、看護師が自分自身に問いかける作業が繰り返される。ものごとを多角的に見る視点は、看護師としての成熟に伴い求められていく能力であり、看護学生だけでなく現任教育としても本DVDをおおいに活用してもらいたい。